



## E-1 臨床実習指導方法論

(2020年4月)

公益社団法人 日本理学療法士協会  
生涯学習課

## 臨床実習 制度編

2

### 実践力向上のための診療参加型臨床実習

1. 診療参加型臨床実習
  - ・臨床見学、評価実習、総合臨床実習を総じて臨床実習という。
  - ・診療参加型臨床実習とは臨床現場での経験による実践力強化が目標
2. 実習施設の確保
  - ・契約病院の確保
  - ・主たる実習施設では臨床実習指導者1対学生2の原則を緩和
3. 教員
  - ・臨床を業務として担保
  - ・現在の教員は360時間は免除
4. 臨床実習指導者の研修を義務化
  - ・16時間の研修義務
5. 責任者
  - ・養成校及び実習施設側に学生に対する責任者の配置を義務化
6. 実習の範囲
  - ・学生の患者接触を一定の条件下で承認

3

### 臨床実習の構成及び方法

臨床実習の構成は、原則として「見学実習」「評価実習」「総合臨床実習」をもって構成することとし、評価実習、総合実習については、実習生が診療チームの一員として加わり、**臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習**が望ましいとする努力規定等を追加する。

4

## 医学教育における診療参加型臨床実習

- 指導医や研修医、さらには看護師や薬剤師などの多職種も含めた診療チーム
- 学生がその診療チームに参加し、その一員として一定の役割・責任を担いながら診療業務を分担して行う臨床実習
- 医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶ

(診療参加型臨床実習の実施のためのガイドライン、一部改変)

5

## 臨床実習で学ぶべき行為

医学教育	理学療法士教育
コミュニケーション力 (患者／家族、医療スタッフ)	コミュニケーション能力 (患者／家族、多職種)
対話能力	対話能力
説明能力	説明能力
診察能力	情報収集・視診・問診・触診・観察・検査測定能力
臨床推論能力(診断学)	臨床推論能力(理学療法評価学：問題点の抽出まで)
医療計画の立案(診断、検査、治療、教育)	理学療法計画(リハビリテーション実施計画)の立案(問題点、理学療法プログラム、患者指導)

6

## 理学療法士教育における診療参加型臨床実習

- 学生がチームの一員として実際に診療に参加
- 実践的な臨床能力を身に付ける臨床に参加する形式
- チームの立案した診療計画に基づく
- 実習指導者の監督・指導のもとで患者を受けもつ等診療に参加するもの

※実習生が単独で行動したり、実習生の考えた診療内容を実施したりする担当型臨床実習や、実習指導者の診療の横についているだけの見学型臨床実習ではない

(理学療法モデル・コア・カリキュラム、一部改変)

7

## 理学療法士教育における診療参加型臨床実習

- 学生がチームの一員として実際に診療に参加
- 実践的な臨床能力を身に付ける臨床に参加する形式
- チームの立案した診療計画に基づく
- 実習指導者の監督・指導のもとで患者を受けもつ等診療に参加するもの

※実習生が単独で行動したり、実習生の考えた診療内容を実施したりする担当型臨床実習や、実習指導者の診療の横についているだけの見学型臨床実習ではない

(理学療法モデル・コア・カリキュラム、一部改変)

実習生が単に受け身になることを推奨するものではない。  
実習生のレベルに合わせて主体的に、高い学習動機を持って臨床実習に望めるような対応が必要。

8

## 総単位数の見直し

高齢化の進展に伴う医療需要の増大や地域包括ケアシステムなど、理学療法士を取り巻く環境の変化への対応や、臨床実習の拡充などによる質の高い理学療法士を育成するため、総単位数を以下の通り見直す。

<93単位以上から101単位以上へ引き上げ>

- ・臨床実習の拡充(18→20単位)
- ・職場管理、職業倫理に関する理学療法管理学の追加
- ・安全かつ効果的な理学療法を提供するための画像評価

9

## 総合臨床実習の1単位の時間数の見直し

臨床実習時間外での学習を考慮し、総合臨床実習の1単位の時間数を「1単位を40時間以上の実習をもって構成することとし、実習時間外に学習等がある場合には、**その時間を含め45時間以内**」に見直す。

10

## 臨床実習施設の要件

養成施設は一定の要件を満たす主たる実習施設を置くことが望ましい等の努力規定を追加する。  
(臨床実習施設の要件)

指定規則に定める臨床実習については、実習時間の3分の2以上は医療提供施設(薬局、助産所を除く)において行うこと。ただし、医療提供施設における実習の2分の1以上は病院又は診療所で行うこと。また、**訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーションに関する実習を1単位以上**行うこと。

11

## 臨床実習指導者の要件等

実習指導者は、理学療法に関し相当の経験を有する理学療法士とし、免許を受けた後5年以上業務に従事したものであり、かつ厚生労働省が指定した**臨床実習指導者講習会等を終了した者**とする。

見学実習及び**主たる実習病院での実習**については、実習施設における実習人員と実習指導者数の対比が2対1程度でなくても可能とする。

12



### 臨床実習において学生が実施可能な基本技術の水準

水準Ⅰ 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目

水準Ⅱ 指導者の補助として実施されるべき項目および状態

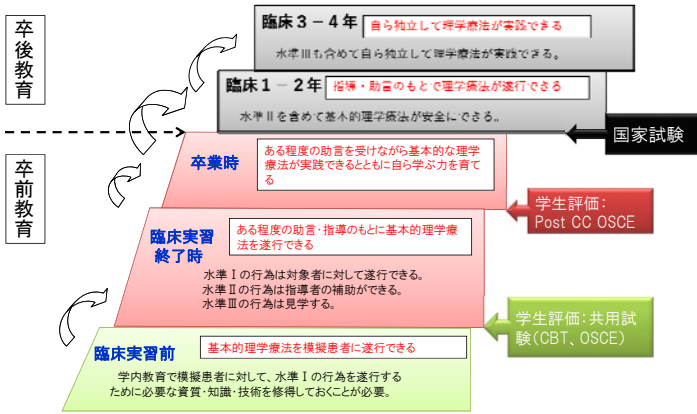
水準Ⅲ 見学にとどめておくべき項目および状態

### 臨床実習において学生が実施可能な基本技術の水準

#### 臨床実習において学生が実施可能な基本技術の水準

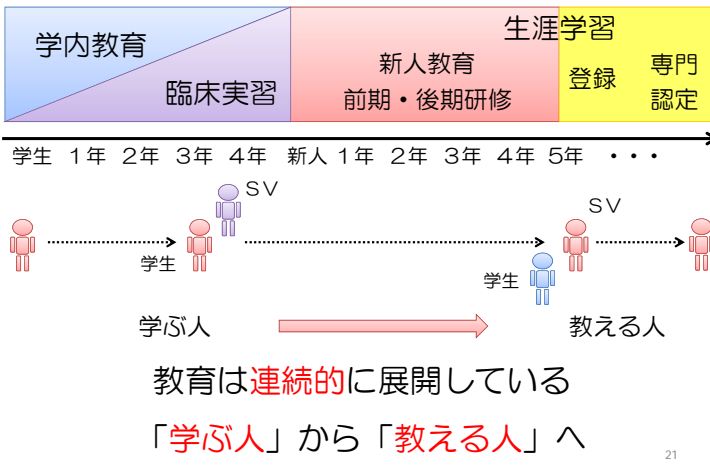
項目	水準Ⅰ 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目	水準Ⅱ 指導者の補助状態
教育目標	臨床実習で修得し対象者に実践できる。ただし、対象者の状態としては、全身状態が安定し、学生が行う上でリスクが低い状態であること	模擬患者、もしくは、指導者の補助と
動作介助(誘導補助)技術	基本動作・移動動作・移送介助 体位変換	急性期やリスクを有
リスク管理技術	スタンダードプリコーション(感染に対する標準予防策)、症状・病態の観察、バイタルサインの測定、意識レベルの評価、各種モニターの使用(心電図、パルスオキシメータ、筋電図)、褥瘡の予防、転倒予防、酸素吸入療法中の患者の状態観察	創部管理、廃用性 レーン・カテーテル 持装置装着中の患 中心静脈栄養中
理学療法評価技術(検査・測定技術)	情報収集、診療録記載(学生が行った内容)、臨床推論 問診、視診、触診、聴診、形態測定、感覚検査、反射検査、筋緊張検査、関節可動域検査、筋力検査、協調運動機能検査、高次神経機能検査、脳神経検査、姿勢観察・基本動作能力・移動動作能力・作業工程分析(運動学的分析含む)、バランス検査、日常生活活動評価、手段的日常生活活動評価、疼痛、整形外科	診療録記載(指導 急性期やリスクを有 生理・運動機能検 誘導心電図、スバ を用いた検査、動

### 臨床実習前、総合臨床実習終了時の到達目標

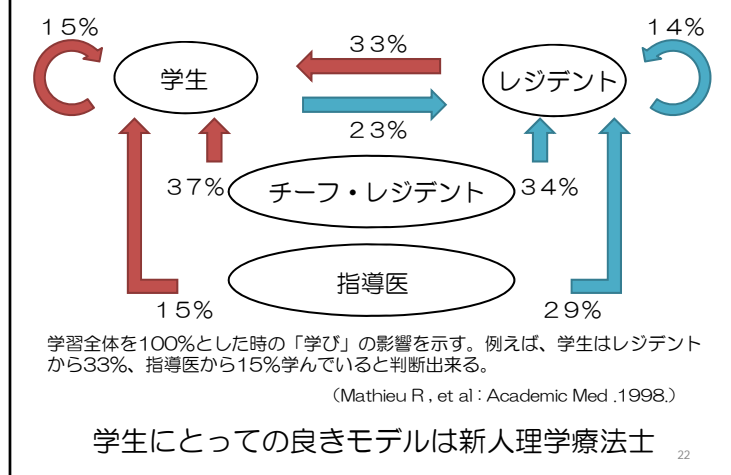


## 臨床実習 実践編

## 生涯学習と臨床実習の関係



## 臨床実習における新人の役割



## 指導とは自分を整理することから



出典：新人3年目までに身につけたい実践理学療法スキル，医歯薬出版，2010.

実習指導者になるための第一歩は、  
「自分の臨床をわかりやすく整理する」こと

23

## 相手に伝える手段はいくつある？

項目	具体例
講義	指導者が説明する
文献	症例に関する文献を紹介する
視聴覚	症例の歩行ビデオを見せる
見学	症例の歩行を実際に見学させる
議論	症例の歩容を議論する
実践	実習生が歩行介助する
伝達	実習生がほかの実習生に教える

出典：新人3年目までに身につけたい実践理学療法スキル，医歯薬出版，2010.

臨床実習では様々な方法を用いて相手に伝達する。  
自分はいくつの方法で伝達できるか考えてみよう。

24

## 臨床実習指導者 ～4つの役割～

### 専門家

「専門的な知識や技能を伝える」

指導者が実習生に詳しく説明する  
しかし、実習生が依存的になりやすい

### モデル

「行動や価値観のモデルになる」

実習生に指導者の臨床を見学させる  
実習生がその内容を模倣する

### 共同学習者

「共同責任をもち共に計画し学ぶ」

学習者と一緒に課題を分担する  
一方的に指導することは避ける

### ファシリテーター

「学習者の成長と変化を励まし支える」

学習者を励ます、質問する  
学習者がやりたいことを援助する



25

## 実習生の特性 ～実習環境～

### 指導者

学びやすい環境を  
整備する  
周囲との良好な関係  
質問しやすい雰囲気



### 学習者

はじめての実習施設  
かなり緊張する

出典：新人3年目までに身につけたい実践理学療法スキル，医歯薬出版，2010.

実習生ははじめての実習施設の環境に緊張する。  
学びやすい環境作り、実習生の相談役になろう。

26

## 実習生の特性 ～受動的な学習～



① 受動的な学習

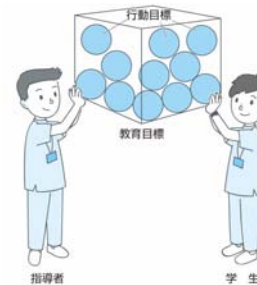
② 能動的な学習

出典：新人3年目までに身につけたい実践理学療法スキル，医歯薬出版，2010.

「言われたこと」は出来ても、  
「自ら実践すること」は少ない。

27

## 目標設定 ～教育目標と行動目標～



### 教育目標

一定期間に達成する内容を定めたもの  
例) 良い理学療法士になる

### 行動目標

教育目標を個々の項目に分割したもの  
例) 挨拶ができる  
関節可動域の測定ができる

指導者

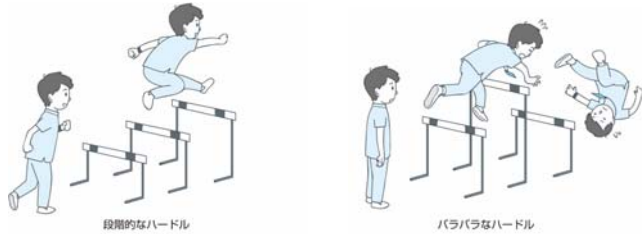
学生

出典：新人3年目までに身につけたい実践理学療法スキル，医歯薬出版，2010.

具体的な行動目標を設定することがポイント

28

## 目標設定 ～段階的な目標～



次々とクリアすることで成功を体験      失敗を繰り返し学習に恐怖を感じる

出典：新人3年目までに身につけたい実践理学療法スキル，医歯薬出版，2010。

少しの努力で達成できる段階的な目標設定がポイント

29

## 教育評価 ～評価時期～

**診断的評価**：実習開始時

目標設定と実習プラン作成を目的に評価する  
養成校・前実習施設からの情報を参考に、実習開始時の学生の状態を把握する。

**形成的評価**：実習期間中

学習形成過程の改善を目的に評価する  
日々のフィードバック、中間評価などを利用し、学習状況・目標到達度を確認する。

**総括的評価**：実習終了時

目標達成の程度を総括的に評価する  
実習終了時に学習成果を総合的に判断する。

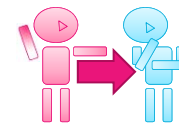
30

## 教育評価 ～客観的評価の要件～

- 複数指導者による評価  
同一施設内で複数の指導者が評価する  
一人職場では他部門から情意領域のみでも評価してもらう
- 実習生による自己評価  
実習生に自己評価してもらい、指導者との差を検討する
- 養成校の資料を利用する  
実習指導者会議の資料を参考に評価の傾向を知る
- 過去の成績表を蓄積する  
今までの実習生の成績表をファイルして分析する

31

## 即時・遅延フィードバック



即時フィードバック

その場で理解できる  
依存的になりやすい



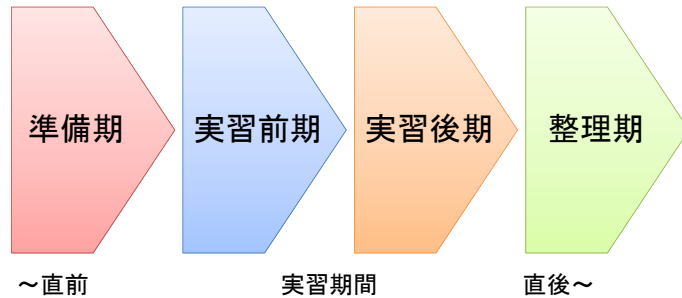
遅延フィードバック

利点 再考の機会を与えられる  
欠点 やがて考えることをやめる

ポイントは、**具体性とタイミング**



## 臨床実習全体のスケジュール



## 準備期

- ・年間計画を立案する  
学生の受け入れ時期と人数の調整
- ・臨床実習指導者講習会の受講  
必須講習会を受講する
- ・臨床実習指導者会議への参加  
各学校養成施設の特徴を把握する
- ・臨床実習指導体制の確認  
実習調整者と実習計画を立案する

## 実習前期

- ・オリエンテーション  
施設の特徴, ローカルルールを説明する
- ・見学からの導入  
十分な見学時間を確保し, ポイントを説明する
- ・見学から協同参加への移行  
学生が参加できる内容から段階的に取り入れる
- ・実習後半に向けた準備  
実習後半をイメージし, 具体的に計画する

## 実習後期

- ・協同参加から実施への移行  
実施できる内容から積極的に取り入れる
- ・自己決定の増加  
指導者の関与を減らし, 学生の自己決定を促す
- ・オプションの導入  
経験値を高めるために, オプションを企画する
- ・臨床実習を総括  
臨床実習での変化を共有する

## 整理期

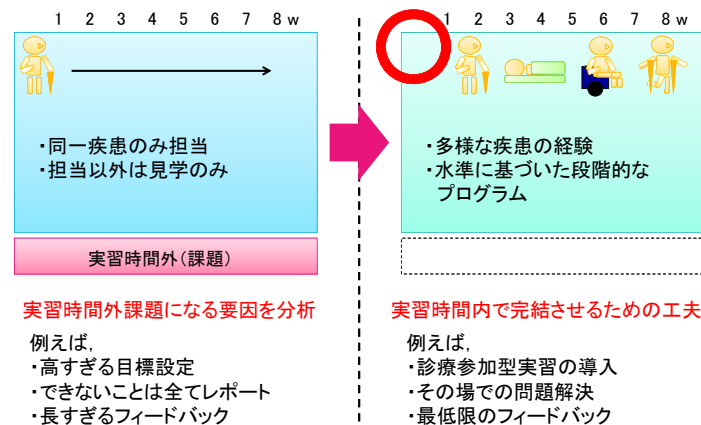
- ・臨床実習を振り返る  
臨床実習を振り返り、課題を明確にする
- ・実習指導者評価を実施する  
自らの実習指導について自己評価する
- ・スタッフとの意見交換  
関連スタッフと討論し、意見を聴取する
- ・次回に向けた準備  
次の臨床実習で何を行うか、具体化する

## 1日のスケジュール(急性期病院の例)

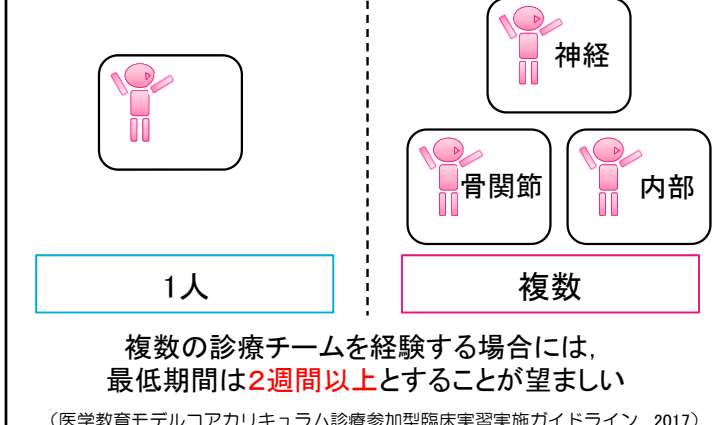
	主なスケジュール	学生の行動計画
8:30	カルテ・チェック 理学療法 (評価・治療)	..... 予定の確認 ..... 診療参加
11:30	午前のまとめ	..... <b>自主学习(振り返り)</b>
12:00	昼休み	
13:00	理学療法 (評価・治療)	..... 診療参加
15:30	病棟カンファレンス	
16:00	午後のまとめ	..... <b>自主学习(振り返り)</b>
16:30	フィードバック	..... <b>1日のまとめ</b>
17:00	学生帰宅	

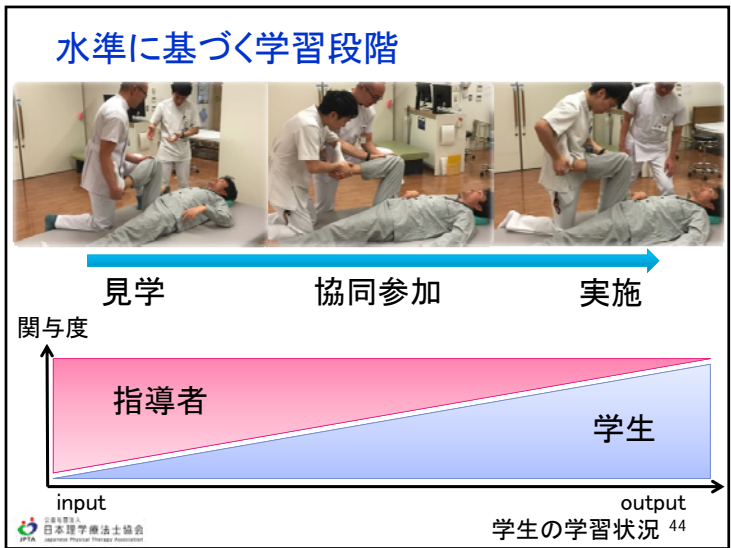
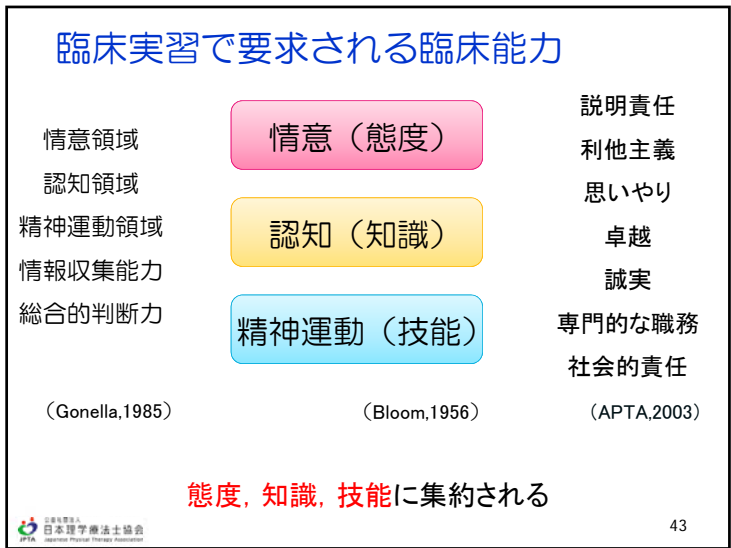
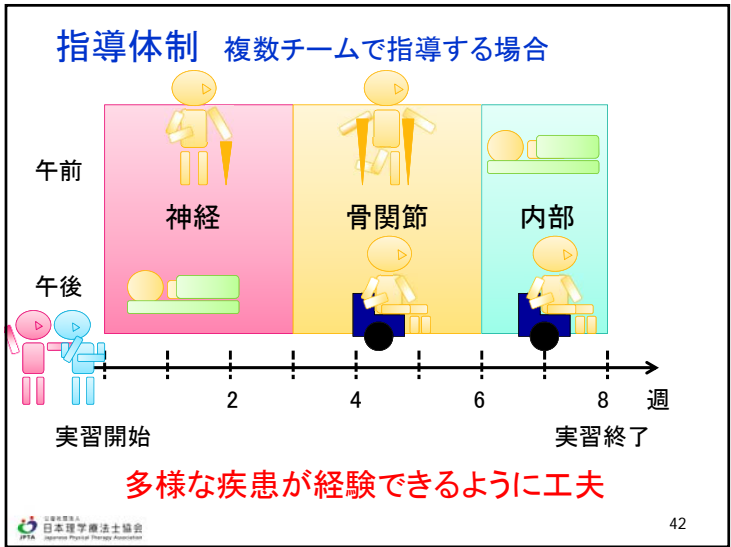
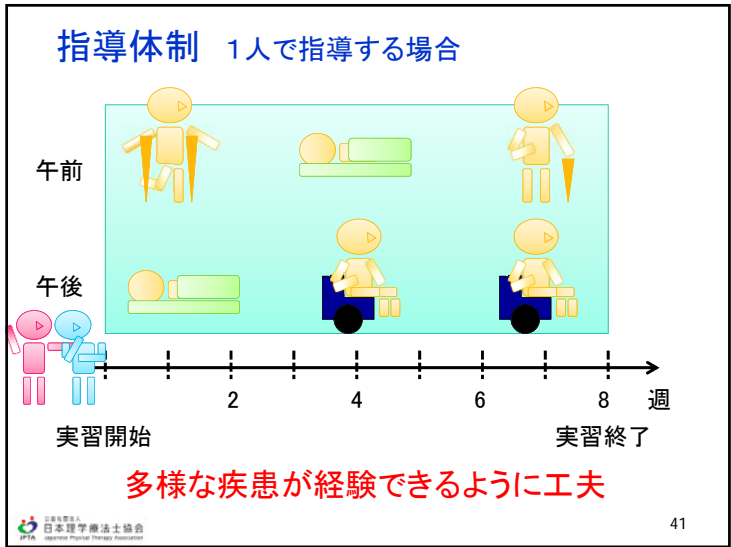
実習時間内で完結させるための工夫

## 8週間のスケジュール



## 指導体制





## 技能 見学から協同参加



### 見学

- ・指導者の評価・治療場面を見学させる
- ・患者との位置関係, 手の位置, 抵抗の掛け方, 運動方向, 運動スピード, 臨床推論などについて説明する
- ・同一疾患でも抵抗感, 運動スピードが異なるなど, 患者の個別性についても説明する

## 技能 協同参加から実施



### 協同参加

- ・患者, 学生, 指導者による介入場面を設定する
- ・学生が主体的に行い, 指導者が部分的にサポートする
- ・困難な場合には, 指導者のサポートを増やす

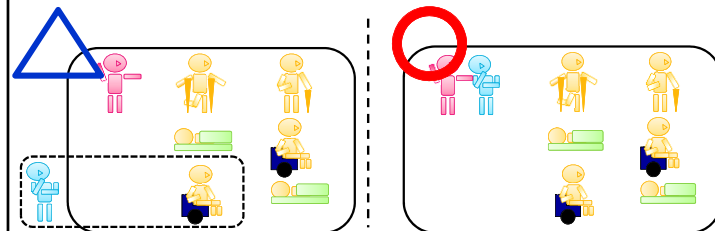
### 実施

- ・学生のみで手技を行い, 他の患者へも応用する

## 時間外課題から時間内指導への転換

- ・診療参加型臨床実習を導入し, 実習時間内で完結させる。
- ・学生の能力に応じた無理のない実習プログラムを立案する。
- ・レポートなどの課題を中心に学習を進めるのではなく, その場で可能な限り問題解決できるように助言する。
- ・フィードバックは必要最低限とし, 短時間で簡潔に行う。
- ・学生の睡眠時間を確保するため, 実習時間外での学修状況を常に確認する。

## 診療参加型実習を導入し, 時間内で完結させる



△ 患者担当型は, 学生が担当する症例への理解は深まるが, 追及し過ぎることで過剰な指導になる危険がある。

○ 診療参加型は, 学生と指導者が行動を共にして, その場で経験できるため, 実習時間内に完結することができる。

## まとめ

- 臨床実習指導方法論を「制度編」と「実践編」に分けて紹介した。
- 日本理学療法士協会倫理規程に示されるように、「理学療法士は後進の育成に努力しなければならない」のである。
- まずは自らの臨床を整理することから開始し、将来の臨床実習指導者になることを期待する。